

平成 2 7 年度第 1 回

香美市総合教育会議議事録

日時 平成 2 7 年 5 月 2 6 日
午前 1 0 時 0 0 分 開会
場所 香美市役所 3 階会議室

1 招集場所 香美市本庁舎 3階 会議室

2 会議の日時 平成27年5月26日(火)
開会：10時00分 閉会：11時00分

3 会議出席者等

(構成員)

市長	法光院	晶一
教育委員長	宮地	憲一
教育委員	浜田	正彦
教育委員	西	美紀
教育委員	竹平	豊久
教育長	時久	恵子

(事務局)

教育次長	小松	美公
総務課長	山崎	泰広
教育振興課長	前田	哲夫
生涯学習振興課長	久保	和昭
教育振興課主監	上村	安和
総務課	池澤	卓也
教育振興課	岩本	岳

(傍聴人)

なし

4 議事

- (1) 香美市総合教育会議運営要綱の制定について
- (2) 香美市総合教育会議傍聴要綱の制定について
- (3) 大綱の策定について
- (4) 香美市の教育の現状と課題について
- (5) その他について

5 議事の経過

(開会 午前10時00分)

(山崎総務課長)

定刻となりましたので、ただ今より「第1回香美市総合教育会議」を開会いたします。

私は、本日の進行を務めさせていただきます総務課長の山崎と申します。よろしくお願いいたします。それでは開会にあたりまして、法光院市長よりご挨拶を申し上げます。

(法光院市長)

皆様、おはようございます。第1回香美市総合教育会議を開催するにあたり、ご挨拶を申し上げます。本日はお忙しい中をご出席いただきまして、ありがとうございます。皆様には日々、香美市の教育行政の推進にご支援をいただいております。厚く御礼申し上げます。

総合教育会議につきましては、初めての会議でございます。会議の冒頭に当たりまして、市長として、教育行政の責任の明確化、危機管理、連携などの強化を図ることを重視するとともに、何よりも教育の政治的中立、継続性、安定性が確保されるよう努めることを表明させていただきます。

香美市におきましては、行政課題が山積しておりますが、とりわけ次代を担う子どもたちのもてる能力が開花できるよう学校教育の充実を図るとともに、市民の皆様がいつまでも自分らしく心豊かに暮らせる環境を築かなくてはならないと考えております。

総合教育会議の設置により教育委員会との意思疎通を図り、地域の教育課題を共有しまして、教育行政の推進を図りたいと存じますので、皆様方にはどうぞよろしくお願いいたします。

以上をもちまして開会の詞といたします。よろしくお願いいたします。

(山崎総務課長)

ありがとうございました。

続きまして、教育委員会の皆様より、自己紹介を兼ねまして一言ずつご挨拶をお願いいたします。

(宮地教育委員長)

宮地憲一と申します。

今日、委員長に再任されまして、2期目を迎えます。どうぞよろしくお願いいたします。

先ほど、市長からお話があったように、香美市には問題が山積しており、教育問題にもたくさんの課題がございます。

ただ、教育問題は教育委員会だけでは、なかなか解決には至りません。やはり香美市をあげて、もちろん市役所もそうなのですが、住民の方も含めて、英知を結集して香美市の振興発展を期していかなければならない状況になっているのではと思います。

例えば、物部町を考えますと、子どもたちも少なくなっております。何もしなければ、将来的に町が疲弊してしまいます。

今後、子どもたちをいかに育て、しかも、いかに郷土に定着をし、そこで、しっかり生活の営みを図っていけるようなまちづくりをしていかなければならない、そういう中で、学校の教職員はどうあるべきか、これから真剣に考えていかななくてはなりません。

私も去年物部地域で何回かお話をさせていただく機会を得ることができまして、地域の方と話をさせていただいたところです。学校の先生や保護者だけでなく、地域の方や行政も入って、みんながそろって子どもたちを育てる。これが香美市であり、ひいては高知県、日本にあい通じる課題だと思っています。よろしくお願いいたします。

(時久教育長)

教育長の時久恵子です。よろしくお願いいたします。

最初に『活力ある教育から躍動する教育へ』ということで、審議をしていきながら、こういう言葉で語って作ろうとしているところです。

活力ある教育は、どこでも一生懸命やって、本当に元気な教育を作ろうとしていますけど、外から見ても香美市の教育は本当に先を見てみんなで力強く作っているということが「見える」「みんなが動いている」そういう教育にしていきたいという気持ちが強くあります。課題はたくさんありますけれども、一つ一つを丁寧に分析しながら方策を立てて、教育を作り上げたいと思っています。

『郷土を愛し、未来を拓く』ということで、これは大人も子どももみんな未来を拓くという教育をしていきたいということと、『よってたかって教育』と今名前をつけていますが、地域の人みんなが、よってたかって香美市の教育を躍動する教育へ作り上げて行きたいと思っています。よろしくお願いいたします。

(浜田委員)

教育委員の浜田正彦です。よろしくお願いいたします。

私は、平成7年から工科大の創設準備から土佐山田町にはご厄介になっていますが、そのときから保育、幼稚から大学まである全国でも珍しい教育一環の形ができるのだという思いは持っておりまして。これを何とか活用していきたいという思いは、今も一緒です。それにあわせて今年から、地域生活センター長という職名を拝命しております。先ほど委員長がおっしゃっていましたが、合併で色々あった物部町や香北町に関して少し考えなくてはならないので、その辺は大学の仕事として、色々考えていきたい。ただ、人口の減少というのはやっぱり大きな問題ですので、そこには暮らしが成り立つことと、子どもたちの教育が大きな要素となって来ると思います。

加えて、香美市に行けば豊かな生活、教育が受けられるというような形になっていけば、きっと香美市の繁栄につながって行くと思っております。それにできるだけ貢献して行きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(西委員)

教育委員の西美紀と申します。

私も、まだ子どもが小学校と中学校に通っています。

子どもたちが『香美市ってすごい楽しいな』って思えるようなところになってもらいたいなというのすごくありますし、保護者としての意見を言わせていただいているような状況です。よろしくお願いいたします。

(竹平委員)

教育委員の竹平です。今朝、市長から教育委員の辞令をいただきました。

今日、資料も色々いただきましたが、特に、香美市の教育振興基本計画、これが香美市の教育の施策の方針と認識しておりますので、このあたりをひもときながら、また同時に

宮地委員長がおっしゃられたとおり、香美市の教育が、現在土壇場に来ているので何とか介入していかななくてはならない状態になっておりますので、そういったところを改善して行かなくてはなりません。

そういったところと、香美市の教育振興基本計画をすり合わせ、見極めながら、お互い市と連携し、意見を言わせていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

(山崎総務課長)

ありがとうございました。皆様のご挨拶が終わりました。

次第に従いまして、議事に入っていきたいと思います。よろしくお願いします。

それではお手元の会議次第の議事第1号と第2号を一括で説明します。

総務課からの説明になります。総合教育会議につきましては、地方教育行政組織及び運営に関する法律第1条の4に規定されておりますが、同条第9項に総合教育会議の運営に対し必要な事項は総合教育会議が定めると規定されておりますので第1号と第2号の議事は本会の運営について、香美市総合教育会議運営要綱と本会の傍聴について香美市総合教育会議傍聴要綱を定めることについて協議をお願いするものでございます。

第1号の「香美市総合教育会議運営要綱」案についてですが、ほとんどの規定は、法の規定と同じ内容を規定したものです。第7条の議事録の署名につきましては、議事録の内容の真正の確保のため市長と教育委員会双方で署名するよう規定したもので、教育委員会として教育委員会の事務をつかさどる教育長が行うよう規定したものです。

また、第2号の「香美市総合教育会議傍聴要綱」案については、総合教育会議が原則、公開となっていることから、会議が公正、かつ円滑に行われるよう、傍聴に関する基準を定めるものです。なお、要綱案の内容については、香美市議会傍聴規則や香美市教育委員会傍聴人規則を作成しています。

それではご協議よろしくお願いします。

(教育委員長)

先ほど総務課長が言われましたとおり、これは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に沿ったものですか。

(山崎総務課長)

そうです。

(法光院市長)

運営要綱の中に、議事の進行について市長がはかったらというお考えもあるかも知れません。冒頭で申し上げましたとおり、連携強化は図っていくけれども、政治的な中立は大事にしたいという思いがありますので、市長が仕切るということはできるだけ避けたいということで総務課長に進行をお願いしているところです。他の自治体の中には、市長がすべて進行して決定するとなっているかもしれませんが、総合教育会議には行政として慎重にしなければならないと思っています。ご理解をお願いします。

(山崎総務課長)

市長から議事進行の説明がありましたけれども、その他にご異議、ご質問はないですか。

他にご異議がないようでしたら、第1号、第2号の議事について本案で合意ということで、次の議事に進めさせてもらいますよろしくお願いします。

(山崎総務課長)

続きまして、第3号の議事「大綱の策定について」は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3第1項に規定されているように、「地方公共団体の長は教育基本法第17条第1項に規定する基本的な方針を参酌し、その地域の実情に応じ当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定める」こととされ、同条第2項に「地方公共団体の長は、大綱を定め、又はこれを変更しようとするときは、あらかじめ、総合教育会議において協議する」ものと規定されています。

大綱には、地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものとなりますが、本市においては、平成26年3月に「香美市教育振興基本計画」が定められています。

この「香美市教育振興基本計画」について、教育委員会よりご説明をお願いいたします。

(時久教育長)

それでは、説明させていただきます。まず、香美市教育振興基本計画の1ページをお開きください。

「第1章計画の策定にあたって」ということですが「1計画策定の趣旨」の下から4行目のところからご覧ください。

「香美市教育振興基本計画」は、市政推進の柱として定められている第1次香美市振興計画の教育分野をさらに具体化するとともに、全市民が生涯にわたって豊かに学び続けられる環境づくりと、次代の香美市を担う市民を育てていくことを目的に策定しました。

「2. 計画の位置づけ 3. 計画の期間について」ということで次のページを開いてください。

本計画は、教育基本法第17条第2項に基づく計画として、国の第2期教育振興基本計画や高知県の教育振興基本計画を参酌して策定しました。また、第1次香美市振興計画後期基本計画を上位計画とし、他の関連計画とも整合性を図り策定しました。本計画は、平成26年度を初年度とし、平成35年度までの10年間を通じてめざす基本理念や基本的な方向性を明確にするとともに、前期5ヶ年間に於いて重点的に取り組む施策を示しています。なお、中間年である平成30年度に見直しを行います。

計画の中身でございますが、13ページをご覧ください。

第3章でございますが、「計画の基本理念と視点」の「1基本理念」は郷土を愛し、未来を拓く人づくり、『香美市は、物部川、国分川源流域から高知平野に至る美しく豊かな自然環境に恵まれています。本計画では、こうした豊かな風土や、培われてきた多彩な文化・歴史、先人やそこに住む人々など、香美市ならではの教育資源を香美市の“たから”と捉えて教育に活用します。そして、生涯にわたって主体的に学ぶことで郷土を愛し、未来を拓く市民の育成をめざします。』これが基本方針でございます。

そして、「2視点」ですが、おおまかに分けて3つの視点で構成しております13ページの下の方、14ページをご覧ください

①「学ぶ！」『主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます』

②「つながる！」『市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます』

③「未来を拓く！」『夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します』

という3つの視点を定めて計画に取り組みます。

これらを相互に関連させながら施策を展開することで、香美市の次代の市民の育成を図ることをめざしています。地域社会の協働による「知」の好循環が未来の香美市を拓く新たな創造へとつながります。

非常に簡単ですが、以上で、本計画の概要の説明を終わらせていただきます。

施策の全体体系が15ページに書いてあります。細かい体系に沿って進めてまいります。

なお、大綱が対象とする期間については、教育振興基本計画の中間見直しまでの、平成30年度までとすると考えております。

以上でございます。

(山崎総務課長)

ありがとうございました。

大綱と教育振興基本計画の関係については、文部科学省初等中等教育局長通知において、「地方公共団体において、教育基本法第17条第2項に規定する教育振興基本計画その他の計画を定めている場合には、その中の目標や施策の根本となる方針の部分が大綱に該当すると位置付けることができると考えられることから、地方公共団体の長が、総合教育会議において教育委員会と協議・調整し、当該計画をもって大綱に代えることと判断した場合には、別途、大綱を策定する必要はない」という通知もあることから、当該基本計画をもって、大綱に代えることについて、協議をお願いするものです。

それではよろしくお願いします。

(浜田委員)

平成26年に「教育振興基本計画」を立てています。それが前期ということで進んでおりますので、この形で行きたいと思っておりますが、当然市長にもご意見を聞かなければならないと思います。

(法光院市長)

大綱としてみなすということで、大枠では私はこれでいいと考えます。

前期の計画が終わり、後期になるとなった時に、計画の見直しというのはどうでしょう。

(山崎総務課長)

前期についてはこれを大綱にかえる。それについては、異議はないということで、見直しのタイミングについての趣旨だったと思いますが、この場で結論が出ないようでしたら、この会議を進行して途中でその議論をしていけばどうかと思いますがどうでしょうか。

(時久教育長)

もともとは10年計画で考えていまして、ただ、社会の流れが非常に速く、変化が激しいので、10年このままというよりは5年ぐらいたったときに、社会の情勢からいっても、多分見直しが必要でありますし、香美市の教育の推進から言っても、大いにできたことと、課題が残っていることとかを洗い直して、後の5年の計画については見直す必要があると思います。

(宮地教育委員長)

補足させてください。

基本的な方向は後期になっても変わらないと思います。具体的な施策が変わってくることでございまして、第2の香美市振興計画、当然そこに重なりがございしますから、その部分については柔軟に対応して行く必要があります。市全体の基本計画と柔軟に対応して

行きたいと思います。

(山崎総務課長)

宮地委員さんからのご意見も出ましたので、それを元に今後の議論につなげたいと思いますので、よろしくお願いします。

その他にご異議とかありませんか。

他にご異議もないようですので、第3号の議事について、(香美市教育振興基本計画をもって大綱とし、その期間は平成30年度までとする)ということで次の議事に進めさせていただきます。

続いて議案第4号の議事について教育委員会より説明をお願いいたします。

第4号の議案につきましては「香美市の教育の現状と課題について」ということです。それでは教育長よろしくお願いします。

(時久教育長)

第4号の「香美市の教育の現状と課題について」ということで大きく教育振興課の教育の現状と課題、それから生涯学習振興課における現状と課題ということで、非常に大きな視点ですけどお話させていただきたいと思います。

教育振興課では、互いに力を合わせ創意工夫しながら新しい時代を築いていく人づくりをめざして取り組んでいます。リーフレットをご覧ください。香美市の教育は『よってたかつて地域が育てる教育』として進めています。これは、「学校、家庭、地域一緒になって香美市の教育を作っていこう」ということです。中を開いてください。このページは市内全教職員が検討を重ねて保育園から中学校までの「15年間を見通した『めざす子どもの姿』」をまとめたもので、各園・小・中学校は15年間の連続した育ちを意識して、さまざまな工夫をしながら取り組んでいます。香美市に愛着を持ってほしいと、「香美市ふるさとプログラム」も行っています。課題は表紙のレーダーチャート①②④で、まだまだ指導支援が必要です。

生涯学習振興課では、主催事業を数多く提供していますが、毎年さまざまな工夫をしているところですが、全体的にみて参加者が少なく、既存事業の状況分析、市民の意向等の把握が急務となっています。人権教育・啓発活動については、参加者の固定化・減少傾向があり大きな課題と考えています。今後、図書館本館や文化施設の建築と、市民グラウンドや体育施設の大規模改修が控えています。

(山崎総務課長)

ありがとうございました。

それでは協議に入っていきたいと思いますので、ご意見のある方はよろしくお願いします。

(法光院市長)

時久教育長から課題のお話をいただいたわけですけど、小学校、中学校の課題や、生涯学習の課題も共通した点があって、積極性、アグレッシブに行動するところや主体性を帯びてやるところが弱いのではないかという感じがしました。

それが良さでもあるといわれるかもしれません。穏やかで和やかで、そういうふうに言っただけのかもしれませんが、しかし、いよいよ総合戦略だとか、地方創生だとか、しっかり自分たちのまちを磨き上げて、頑張っていきたいと行った時に、大きな課題となる可能性があります。これは行政の方の課題でもあるかなと思います。

(宮地教育委員長)

先日のこども会議のとき、子どもたちが発言や案など色々出していたが、ああいったものをもっと大切にしながら、子どもがいろんなアクションを起こして、それを我々がサポートして、自信をつけていく。子どもたちには、大人にはない新しいアイデアがありますから、そういったことを引き上げていけば、香美市のサポート態勢は良い方なので、子どもが育っていく要素はかなり良いところがあります。この会の内容をそのまま学校へ持ち帰り議論をして子どもなりのアイデアを出してそれを実行することが、まちづくりに貢献することになると期待しているところです。

(浜田委員)

皆さん、比較的穏やかでゆったりとしていて、もっと新しいことをしないのかと思ひながら、地域の住民の方と接し関わってきた経緯があるわけですけど、そういうところは、未だにあるのかなと思っています。

しかし、時代が進んできてこの20年間、SNSなどあらゆることが情報化になってきて、子どもたちの環境も、大人が思うような環境ではなくなってき、都会はさらにですが、田舎であっても、SNSなどの活用でどこかで伝わっている。例えば、教育の現場でも、先生が子どもたちに習うような時代になってくると思います。子どもたちは吸収が早いものですから。

この前、5月20日～22日までビックサイトで、教育の情報化の関係でやっていたが、すごい勢いで変わっています。

それを見ると大胆な形のことを取り入れないと、先に取り入れたところが、地方創生ではないが生き残っているし、国の方もそれを求めているというのは目に見えている状態ですので、教育委員会も行政も色々な施策で抜きん出ていかなないとなかなか難しい時代になって来ている。

国の考え方というのは、20～30万人の拠点都市のインフラを固めてやろうというのが中心となっています。どうしても、小さい市町村がだんだん難しい時代になっているのではないかと心配しております。しかし、小さい市町村であればこそ小回りが利いてできることがあるのではないかと思います。教育に関しては一人一人に目が届くということで、逆に言えば、一人一人の小学校から中学校までの9年間、進み具合とか家庭事情も含めて、この子一人一人をどう地域と育てて行けばいいのかということも、逆に情報化が進むことができるようになっていきますので、小さいゆえにできる手厚い教育をお願いしたいと思っております。

(宮地教育委員長)

付け加えまして、子どもを香美市に通わせたい、そういう魅力ある学校づくりを進めなくては行けない。何もしなかったら子どもは自然減で減っていく。ほかの市町村から香美市の学校に来たくなるような、もっと視野を大きくした発想を持ってやらなければならないと思います。

(山崎総務課長)

ありがとうございました。

教育の現状から課題、目標に至るまでの議論が進んでいるように見えますが、その他にご意見はありますか。

(法光院市長)

香美市に来ていただけたら、教育というか子どもたちがイキイキしてやれるような魅力のあるまちになっていくのは、非常に大事だと思います。

この間のこども会議の中で良かったのは、教育長さんが、この会を一回で終わらさないで、

次回会議をするといったことが良かったと思っているのです

というのは、その会の中で非常に積極的な意見が出たのですよ。少し心配したのは、子どもたちがいろんな提案をしたのだけれども、手厚くサポートするというそのサポートにより積極性を欠いたら、それは、「がんばりなさいよね」と言いながら、スカートの裾を踏んでいるようなやり方をやっているというようなことになりかねないので、サポートをする側も、もう一皮むけないと、「怖いところへ行かせたくない」「失敗をさせたくない」「大変なことはちょっとね」というふうに消極的になってしまい、成功体験を持たないということになると、「やってもどうせやらしてくれないし」と思うかもしれません。これからの子どもたちには成功体験、ドキドキしながらやって成功するというか成功しなくても、何かをやり遂げる、やれたという、そういうことを経験させなければ成らないのではないかと。手厚く、やさしくということも大事だけれども、もっと押して行くところも必要なのかなと思います。

(時久教育長)

教育委員会と、工科大と山田高校なども含めて、香美市教育コラボレーション会議というのを1年余り、毎月1回1時間の会議をしてきています。

そこで、課題は何かとか、どんどん話しながら考えたことをすぐ形にしようという会をしています。その中で最初に香美市の大人も子どももそうですけど、「どういう人をつくりたいか」という話し合いを2～3回かけて議論をしました。その中で工科大生も全部含めて私たちの目指す人物像が3つありまして

- ①主体的でチャレンジ精神を持った人
- ②さまざまな人とつながりながら学び協働できる人
- ③学ぶことによって新しいものを生み出す意欲を持った人

知の創造というか地域の創造というか、ここから湧き起こるような夢のある教育や、まちづくりをしていきたい、そこからすべてを考えて行こうということでそれから後の施策についてもそこからどんどん生まれてきています。今は若干動きが停滞しているようで、人にそういう力がないと思われるのですが、そうではなく、出し方がどうも今、習慣じみていないので出せない状況があるのだろうということを話しました。

例えば、この前のこども会議もそうですけど、子どもたちに「何かやりたいことはないか」と聞いても、やった経験がないので、やりたいことがあるのか、ないのかどうするかということよりは経験がないから、あの場で話し合いをしても、最初は「香美市をアピールするリーフレットを作ればいい」とか、「香美市の歌を作りたい」とか、お祭りをやってそこにもっといろんなことを盛り込んで、元気なまちをアピールしよう出てきましたけど、最終的に「挨拶」と「清掃活動」をやろうと、一回目は落ち着きかけたんですね。「挨拶」と「清掃活動」とは学校でもやっているの日常的にも活動ができるしとてもいいことなのです。やった経験のあることなのだから、子どもは元気に語ってそれをやろうとしたのですが、新たなものはそこに入らなかったの、続きにしたわけです。次の時も、あの時のまま会をすると、「挨拶」と「清掃活動」はとてもいいことだからそれをしようと思ってしまう可能性もあるので、もうひとつ『やったらできるよ』というところを、実行委員さんに話をしながらやったらできたんだということを体感してもらいたかったというのもあって、次の会議に続くとなっているわけです。大人も一緒にいろんなことを生涯学習のほうも用意してやって、それに何回も参加している人と自分たちからそういう企画をいっぱいしている人とがいるわけですね。

けれども、忙しかったり、慣れてなかったり経験がなかったりまったくしていない人もたくさんいます。できないわけではないと思います。香美市の人はずごく力があると思います。だからやっぱりやりながら体験を通してやったらできる、やったら面白いとさっき言った人を目指しているんな機会を作って行きたい、作って提供するのではなく作り出すところから人が関わって行くということを、たくさん提供して行きたいと思っています。

これから色々して行こうと思いますが、図書館の建築が急いで必要となっていくときに、「図書館建てましたよ」「市民の皆さん使ってください」となるとですね、使う人と使わない人が決まってきてしまうことがあるので、建てる前の段階から意見を聞いたり、できるだけ多くの人に関わってもらってみんなで作った図書館みんなで使おうと、あそこへ行ったら何かができるとみんなを巻き込みながら持って行きたいという方向で取り上げていきたいという方向です。

(竹平委員)

リーフレットにあった「香美市よってたかって地域が育てる教育」これを見たら、香美市の子どもたちが弱いのは、「自分に自信がない」ということと、「困難なことでも恐れず挑戦して行く」ところで、ここをうまく解決すれば面白いことになっていくのではないかと思います。一番について言えば生活環境や、経済的な面ですね。こういったものが安定していると、その上に立って物事を考える、幅の広い考え方もできるのではないかと思います。

それとですね、失敗を恐れずに、というのは、全体のサポートですね。何かやろうとすれば怖いというのを一歩乗り越えてやる、その下にベースとなるサポート態勢といいますかそういったものが必要ではないかというふうに思っています。

そういったところを掘り下げて考えて課題として捕らえてやっていく。その延長線上に市も目指している移住、そして子どもたちが勉強しやすい、生活しやすいというところへも連動して行くのではないかというふうに思ったところです。

今日初めてですので意見としてさせていただきました。

(山崎総務課長)

多くの方から、ご意見を賜りまして、今後総合教育会議の議論に委ねていきたいと思っています。

(法光院長)

この消極的でチャレンジする力が弱いのではないかという目で見れば、そういうふうに見えるけれども、日本人ってこういう性格ですねという分け方があるのですが、日本の子どもたちもすでに違っているところもあるねと、色々調べたりもして比較をして、例えば『物事を自由に書いてください、発想してください、自由にものを言ってください』となると、途端に表現がしづらくなる。

ところが、日本の子どもたちは『複数条件の中でこんなことをしてください、発言してください』といわれると、どんどん発言することができるという事があるみたいです。

全部ネガティブにみるのではなくて、こうすればよさが出てくるといことがあるよというところを見ないとここをあげるためにあれしようこれしようでなくて、こういうなかであれば、こういうかたちにすれば、もっとよさがでてくる方法もあるかもしれないわけでそのあたりを僕はネガティブにはとらえないでもっとここから違った発想でやっていく。むしろ挑戦しないと失敗を恐れないで挑戦していますかというけど、慎重に慎重を重ねてやるけど、やり始めたらすごく、元気になっていけることがあるかも知れない。このあたりは表面的に受け止めないほうがいいと考えます。

(浜田委員)

こういう数値で平均値でやっているの、先ほど小学校、中学校、香美市のある程度の子どもの動向とか生活いろんなものを調査、積み上げたときにどうかということをしなけいけいかな。

確かに、市長がおっしゃっていたように自尊感情ですね。外国人は一人称で『I』ですべて自分。日本人は二人称ですべて「あなた」というか相手を意識して「自分」を出さない、そういう傾向は出ている。

やさしさとか、生き方の問題とか、大人がそうですから子どもも影響されていると思います。やっぱり自尊感情というのは、このまち、大人になったときに成功するかしらないか大きな差になっていますのでどちらがいいか。分析をしていくといいのではないかと思います。

(山崎総務課長)

ありがとうございました

だんだんと具体的な議論になっていきましたけれども、教育会議はこれだけではありませんので、そのほか大枠の部分でのご意見等がありましたらお出してください。

ではこの議題についてはこのあたりで、次の議題に進めさせていただきます。

第5号の議事「その他について」ですが次回の総合教育会議の開催についての協議をお願いします。基本的に定例会として何回開催すればいいかということを決めていただければ幸いです。

(宮地教育委員長)

今日は初めて市長さんをお迎えし、お伺いしましたので、先ほど申し上げたとおり、振興計画が、スタートしておりますので一定の期間やって進捗状況といいますかそういったことも申し上げ、また市の方からもご意見いただきたいと思います。

従って、あまり早い時期ではなく11月あたりにもう一度会を開けたらありがたいなというふうに思います。

(山崎総務課長)

はい、ありがとうございます

次回を11月あたりでどうかという意見が出ました。一定進捗をして11月頃に話をすることの提案ですけど、他にご意見はありませんか。

よろしいですか。では、次回開催は11月ということで、細かい日程は事務局とで調整させていただきます。

本日の総合教育会議の議事は以上です

これで第1回香美市総合教育会議を終了させていただきます。

(閉会 午前11時00分)

会議の経過を記載して相違ないことを証するためここに署名する。

香 美 市 長 _____

香 美 市 教 育 長 _____